

所属名称	施策名	事業番号	事業名	評価区分	ページ番号
総合政策室	効率的な行財政運営の推進	616	総合計画推進費	簡易	1
総合政策室	効率的な行財政運営の推進	13391	立地適正化計画策定事業	総合	2
総合政策室	効率的な行財政運営の推進	13417	都市計画マスターplan策定事業	総合	4
総合政策室	効率的な行財政運営の推進	14841	総合計画策定費	総合	6
総合政策室	地域医療の充実	3989	国民健康保険病院建設事業	総合	8

事業番号	事務事業名	総合計画推進費	所管課名	総合政策室	令和 6 年度課長名	安道 智秋
00616	政策名	5 みんなでつくる里づくり	係名			
	施策名	53 効率的な行財政運営の推進	根拠法令等	まち・ひと・しごと創生法、鏡野町総合計画審議会規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し	総合計画の成果指標の達成状況を管理し、最重点施策及び重点施策について総合計画審議会を開催する。	総合計画と総合戦略の一体的な策定を令和2年度に行なったため、本事業自体は令和3年度からとなる。 従来は総合戦略推進費として事業を行っていた。
□ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	また、第2次総合計画の後期基本計画を「かがみの創生総合戦略」を包含した形で策定したため、総合戦略(地方創生)事業を推進する上で必要となる事業評価を開催する。	
□ 単年度のみ	この審議会における委員報酬、旅費等の経費	

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 総合計画	ア 総合計画	計画	見込	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 成果の評価が適切に行われる	ア 経営会議で総合点が前年度より上回った施策の数	施策	目標	15	15	15	
イ	イ 会議で委員より意見のあった数	施策	実績	7	17	9	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町行政評価外部評価委員会を開催する	ア 外部評価委員会開催回数	回	目標	2	2	2	
イ 施策評価会議を行う	イ 施策評価会議開催回数	回	実績	2	2	2	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	—

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)

属する施策の対象			属する施策の意図			
ア 鏡野町の行財政			ア 自主的・自律的な行財政運営の確立			
イ			イ			
ウ			ウ			
エ			エ			

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	02	項	01	目	06	大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計	総務費	総務管理費	企画費	04	01	04	01	総合計画推進費			00616		
予算(千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	決算 (千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町 債							町 債							
その他特財							その他特財							
一般財源	95	387	387	387			一般財源	79	280	313	330			33
合計	95	387	387	387	0	0	合計(A)	79	280	313	330	0	0	33
財源名称							従事正職員人数	4	3	2				-1
							延べ業務事務時間	1,500	1,500	1,500				
							人件費計(千円)(B)	5,043	5,003	5,153	0	0	150	
	最終予算額	387 千円	予算執行率	80.8%	トータルコスト(A+B)			5,122	5,283	5,466	330		183	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地		成果の向上余地		全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等			
適切である		目標水準に達している		令和6年度は審議会委員の方の意見が多く出て、活発な審議会となった。次年度は総合計画策定の年度であり、令和6年度までの施策の振り返りをきちんとを行い、第3次の計画に反映させていく必要がある。			
方法・手段の改善余地		受益機会・費用負担の適正化余地					
改善余地がある		公平・公正である					

事業番号	事務事業名	立地適正化計画策定事業	所管課名	総合政策室	令和 6 年度課長名	安道 智秋
13391	政策名	5 みんなでつくる里づくり	係名			
	施策名	53 効率的な行財政運営の推進	根拠法令等	都市再生特別措置法、鏡野町都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定委員会設置要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し		平成26年8月の都市再生特別措置法の改正により、行政と住民、民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを促進するため創設された。
□ 期間限定複数年度 (5 年度～ 7 年度)	鏡野町立地適正化計画策定に向けて、策定委員会を開催する。 庁内における作業部会を開催する。 策定支援を委託するコンサル業者の委託料。 委員会における委員報酬、旅費等の経費。	鏡野町でも人口減少や少子高齢化が進行し、財政等を含めた持続可能な都市づくりの推進が必要となっているため策定する。
□ 単年度のみ		

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 立地適正化計画	ア 計画(年度毎の成果物含む)	件	見込	1	1	1	
			実績	1	1		
イ	イ		見込				
			実績				
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 住民や有識者の意見を取り入れた内容にする	ア 1名につき2件以上の意見を得る (策定委員10名)	件	目標	20	40	40	
			実績	20	30		
			達成率	100.0%	75.0%	—	—
イ	イ		目標				
			実績				
			達成率				
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 策定委員会	ア 開催回数	回	目標	1	2	2	
			実績	1	2		
			達成率	100.0%	100.0%	—	—
イ 作業部会	イ 開催回数	回	目標	2	2	2	
			実績	2	2		
			達成率	100.0%	100.0%	—	—
ウ 打合せ	ウ 打合せ回数	回	目標	3	3	3	
			実績	3	3		
			達成率	100.0%	100.0%	—	—

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)

属する施策の対象		属する施策の意図	
ア	鏡野町の行財政	ア	自主的・自律的な行財政運営の確立
イ		イ	
ウ		ウ	
エ		エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	08	項	05	目	01	大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計	土木費	都市計画費	都市計画総務費	01	04	立地適正化計画策定事業				13391			
予算 (千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	決算 (千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	
国庫支出金			2,300	825		2,300	国庫支出金			2,300	825		2,300	
県支出金							県支出金							
町 債							町 債							
その他特財							その他特財							
一般財源		7,495	7,128	4,259		-367	一般財源		7,324	5,191	4,259			-2,133
合計		7,495	9,428	5,084	0	1,933	合計(A)	0	7,324	7,491	5,084	0	167	
財源名称	集約都市形成支援事業費補助金					従事正職員人数		2	1					-1
						延べ業務事務時間		800	1,100				300	
						人件費計(千円)(B)		2,668	3,779				1,111	
	最終予算額	9,428 千円	予算執行率	79.4%	トータルコスト(A+B)		9,992	11,270	5,084	1,278				

1枚目

事業番号	13391	事務事業名	立地適正化計画策定事業	所管課名	総合政策室
------	-------	-------	-------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

人口減少や少子高齢化を背景とし、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが大きな課題となっており、こうした中、都市全体の構造を見直し、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考えで進めていくことが重要となっている。

② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯

今まで取り組んだことの無い事務事業のため、改革・改善はない。

③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?

若者が転出しない、子どもを増やせる安心したまちづくりを行って欲しい。

5. 事業評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	まちづくりは町が取り組むべき重要な施策であり、その施策を計画的に行うことの目的とするため、政策体系に結びついている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている		
②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある			理由説明 概ね20年後の町の姿を見据えてどのようなまちづくりをするか方針を決める計画であるため、町が実施すべきである。
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である			
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある			理由説明 今後財政面、経済面において持続可能な都市経営とするための計画であり、対象及び意図は妥当である。
<input checked="" type="checkbox"/> 適切である			
有効性評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由説明	今後も関係各所及び町民のニーズを把握するなどし計画策定を進めることで、より良い計画になる。
	<input type="checkbox"/> 目標水準に達している		
⑤廃止・休止の影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)			
<input type="checkbox"/> 影響がない			理由説明 計画策定を廃止・休止した場合は、持続可能な都市づくりの推進が滞る。
<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある			
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある			理由説明 今まで取り組んだことの無い事務事業のため、改革・改善はない。
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない			
効率性評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	計画策定の委託費等、必要最低限な事業費であるため、改革・改善はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある			理由説明 最小限の人員で策定を行っているため、削減の余地はない。
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体ではなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	本計画の対象区域は都市計画区域であるが、小さな拠点・地域生活拠点として富・上齋原・奥津の各地区も定めることができるため、公平・公正となっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果	②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																								
A 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和6年度は、府舎内協議及び策定委員会を2回開催し、府舎内外からの意見を伺い反映させた。また、策定委員会後は、ホームページに議事録や資料、まちづくりニュースを掲載し、広報には委員会の様子を掲載する等周知にも取り組んだ。第3次総合計画や都市計画マスター プラン、都市再生整備計画と整合性を図りつつ策定しているため、進行・調整が難しい場面がある。																								
B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																									
③今後の事業の方向性(改革改善案)…複数選択可	④担当課としての事業の方針																								
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>今後の改革改善案</p> <p>県やコンサル業者、関係各課と調整を図りながら進める。</p>																								
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下				
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
低下																									
県、府舎内担当課、コンサル業者等と連絡を密に取り、都度確認を行う。																									

事業番号	事務事業名	都市計画マスター・プラン策定事業	所管課名	総合政策室	令和 6 年度課長名	安道 智秋
13417	政策名	5 みんなでつくる里づくり	係名			
	施策名	53 効率的な行財政運営の推進	根拠法令等	都市計画法、鏡野町都市計画マスター・プラン・立地適正化計画策定委員会設置要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し		
☑ 期間限定複数年度 (5 年度～ 7 年度)	鏡野町都市計画マスター・プラン策定に向けて、策定委員会を開催する。 市町内における作業部会を開催する。 策定支援を委託するコンサルタント業者の委託料。 委員会における委員報酬、旅費等の経費。	平成4年の都市計画法改正により規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」である。 人口、人や物の動き、土地の利用のしかた、公共施設の整備などについて将来の見通しや目標を明らかにし、今後の鏡野町をどのようにしていきたいかを具体的に定めるため策定する。
□ 単年度のみ		

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 都市計画マスター・プラン	ア 計画(年度毎の成果物含む)	件	見込		1	1	1
			実績		1	1	
イ	イ		見込				
			実績				
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 住民や有識者の意見を取り入れた内容にする	ア 1名につき2件以上の意見を得る (策定委員10名)	件	目標		20	40	40
			実績		20	30	
			達成率	100.0%	75.0%	—	—
イ	イ		目標				
			実績				
			達成率				
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 策定委員会	ア 開催回数	回	目標		1	2	2
			実績		1	2	
			達成率	100.0%	100.0%	—	—
イ 作業部会	イ 開催回数	回	目標		1	2	2
			実績		1	2	
			達成率	100.0%	100.0%	—	—
ウ 打合せ	ウ 打合せ回数	回	目標		3	3	3
			実績		3	3	
			達成率	100.0%	100.0%	—	—

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)

属する施策の対象		属する施策の意図	
ア	鏡野町の行財政	ア	自主的・自律的な行財政運営の確立
イ		イ	
ウ		ウ	
エ		エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	08	項	05	目	01	大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計	土木費	都市計画費	都市計画総務費	01	05	都市計画マスター・プラン策定事業				13417			
予算 (千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	決算 (千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町 債							町 債							
その他特財							その他特財							
一般財源		2,141	2,847			706	一般財源		2,002	2,847				845
合計	2,141	2,847	2,847	0	706	合計(A)	2,002	2,847	2,847	0	0	845		
財源名称						従事正職員人数		2	1				-1	
						延べ業務事務時間		800	800					
						人件費計(千円)(B)		2,668	2,748				80	
	最終予算額	2,847 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		4,670	5,595				925		

1枚目

事業番号	13417	事務事業名	都市計画マスタープラン策定事業	所管課名	総合政策室
------	-------	-------	-----------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

人口減少や経済の低迷、公共交通の衰退等都市づくりの諸課題に対応するため、土地利用や都市施設の整備について、町がどのような都市を目指していくのか長期的な都市づくりの考え方を示すことが必要とされている。

② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯

今まで取り組んだことの無い事務事業のため、改革・改善はない。

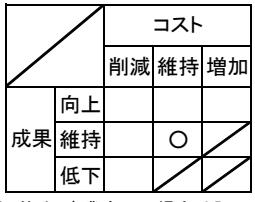
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?

若者が転出しない、子どもを増やせる安心したまちづくりを行って欲しい。

5. 事業評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	都市づくりは町が取り組むべき重要な施策であり、その施策を計画的に行うことの目的とするため、政策体系に結びついている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている		
②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である			概ね20年後の町の姿を見据えて、どのような都市をめざしていくのか方針を決める計画であるため、町が実施すべきである。
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である			都市づくりの諸課題に対応するための計画であり、対象及び意図は妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由説明	今後も関係各所及び住民のニーズを把握するなどし計画策定を進めることで、より良い計画になる。
	<input type="checkbox"/> 目標水準に達している		
⑤廃止・休止の影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)			
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある			本計画は都市の諸課題に対応するための計画であり、今後の都市づくりにおいて重要な計画となる。また、同時策定の立地適正化計画の上位計画となり、立地適正化計画は本計画に即して策定するものであるため、廃止・休止することはできない。
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない			今まで取り組んだことの無い事務事業のため、改革・改善はない。
効率性評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	計画策定の委託費等、必要最低限な事業費であるため、改革・改善はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			最小限の人員で策定を行っているため、削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体ではなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	本計画は町全体の都市づくりの考え方を示すものとなるため、公平・公正となっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果	②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠
A 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	
B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和6年度は、庁舎内協議及び策定委員会を2回開催し、庁舎内外からの意見を伺い反映させた。また、策定委員会後は、ホームページに議事録や資料、まちづくりニュースを掲載し、広報には委員会の様子を掲載する等周知にも取り組んだ。第3次総合計画や立地適正化計画、都市再生整備計画と整合性を図りつつ策定しているため、進行・調整が難しい場面がある。
C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	
D 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	
③今後の事業の方向性(改革改善案)…複数選択可	④担当課としての事業の方針
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 県やコンサル業者、関係各課と調整を図りながら進める。
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題	 県、庁舎内担当課、コンサル業者等と連絡を密に取り、都度確認を行う。 (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)

事業番号	事務事業名	総合計画策定費	所管課名	総合政策室	令和 6 年度課長名	安道 智秋
14841	政策名	5 みんなでつくる里づくり	係名			
	施策名	53 効率的な行財政運営の推進	根拠法令等	鏡野町総合計画審議会規則、鏡野町附属機関設置条例、鏡野町かがみの創生総合戦略審議会規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し		総合計画は地方自治法によって、議会議決を終て定めることが義務付けられていた。しかし、平成23年に地方自治法の一部改正により、この策定義務はなくなり、総合計画の策定は、市町村独自の判断に委ねられている。第2次総合計画は、新町建設計画をベースとして策定しており、次期計画ではより一層計画的で効果的な町政運営が必要であるため、令和8年度から令和17年度の施策を考える第3次総合計画」を策定することになった。
☑ 期間限定複数年度 (6 年度～ 7 年度)	鏡野町第3次総合計画の策定に向けて、第2次計画の施策評価、小学生、中学生、高校生からの意見聴取、地区懇談会の実施、2,000人へ町民アンケートなど実施し統計等の基礎調査を行うことでニーズの把握、課題の整理を行うもの。策定支援を委託する業者への委託料も含む。	
□ 単年度のみ		

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 第3次総合計画	ア 計画(6年度毎の成果物含む)	件	見込			1	1
			実績			1	
イ	イ		見込				
			実績				
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 令和7年度のスムーズな計画策定に向けての準備	ア 委託業者との打ち合わせ(11月以降)	回	目標			3	10.0
			実績			3	
			達成率			100.0%	—
イ	イ		目標				
			実績				
			達成率				
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 学校訪問による意見聴取(小学校・中学校)	ア 訪問回数	回	目標			6	—
			実績			6	
			達成率			100.0%	—
イ 2,000人町民アンケート	イ 回収率30%以上	%	目標			30	—
			実績			34	
			達成率			112.3%	—
ウ	ウ	人	目標				
			実績				
			達成率				

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)

属する施策の対象			属する施策の意図		
ア 鏡野町の行財政	ア		イ	自主的・自律的な行財政運営の確立	
	イ				
	ウ		ウ		
	エ		エ		

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	02	項	01	目	06	大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計	総務費	総務管理費	企画費	25	01			総合計画策定費			14841		
予算(千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	決算(千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町 債							町 債							
その他特財							その他特財							
一般財源			6,712			6,712	一般財源				6,633			6,633
合計	0	0	6,712	0	0	6,712	合計(A)	0	0	6,633	0	0	6,633	
財源名称							従事正職員人数			1			1	
							延べ業務事務時間			240			240	
							人件費計(千円)(B)			824			824	
	最終予算額	6,712 千円	予算執行率	98.8%	トータルコスト(A+B)					7,457			7,457	

事業番号 14841 事務事業名 総合計画策定費 所管課名 総合政策室

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① 事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

住民ニーズの多様化行政サービスへの期待の変化に対応する必要もあり、限られた財源と人材の中で、より効果的・効率的な事業運営が求められている。

- ## ②この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯

第2次総合計画からの町を取り巻く環境を意識して、第3次でも施策や事業の見直しが必要である。住民からの声や審議会の意見を元に取り組む必要がある。

- ③この事務事業に対して、関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか？

住み続けたいと思えるまちになるような計画にして欲しい。

5 事業評価

事務事業評価				
目的妥当性評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか？意図することが結果に結びついているか？)			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	町の最上位計画であり、政策体系に結びついている。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている		②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか？税金を投入して行うべき事業か？住民や地域民間等に任せることはできないか？)	
有効性評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	町の最上位計画であるため、町が実施すべきである。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である		③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか？)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	持続可能な総合計画とするための計画であり、妥当である。	
<input checked="" type="checkbox"/> 適切である			④成果の向上余地(成果向上の余地はないか？成果を向上させる有効な手段はないか？何が原因で成果が向上しないのか？)	
効率性評価	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由説明	各課及び町民のニーズを把握し、委託業者との連携により計画策定を進めることで、より良い計画となる。	
	<input type="checkbox"/> 目標水準に達している		⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は？目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？)	
	<input type="checkbox"/> 影響がない	理由説明	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	持続可能なまちづくりの推進が滞る。
公平性評価	⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか？)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある	理由説明	2次計画同様、住民からの意見を伺い、第3次計画では未来を担う高校生からも意見を伺う予定である。	
	<input type="checkbox"/> 改善余地がない		⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか？)	
公平性評価	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	計画策定の委託費等、必要最低限な事業費であるため削減余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか？)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	最小限の人員で策定を行っているため、削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか？受益者負担は公平・公正となっているか？)			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	公平・公正となっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																	
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																		
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																		
D 公公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	今年度は基礎資料の取りまとめを行った。令和6年2月に1回目の審議会を行う予定であったが、新町長就任後に審議会を行うこととなり、4月下旬に変更した。町民からの意見聴取として3次計画では小学生や中学生からも未来の鏡野町について意見を伺った。学校に町長が出来向いて話をすることは子供達にとってもよい経験となった。アンケートも2,000人を対象として行った。次年度は全地区を訪問し地区懇談会を行う予定。																	
③今後の事業の方向性(改革改善案)…複数選択可			④担当課としての事業の方針																	
<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	今後の改革改善案																		
<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 改善	次年度は6年度の基礎調査に基づき基本構想案を策定し、その後、議会承認を得て、基本計画を策定する。																		
<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 事業完了																			
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題			<table border="1" style="width: 100px; height: 100px;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30px; height: 30px;"></td> <td colspan="3" style="text-align: center;">コスト</td> </tr> <tr> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">削減</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">維持</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="width: 30px; height: 30px; text-align: center;">成果</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">向上</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">○</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">維持</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">○</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">低下</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">/</td> <td style="width: 33px; height: 33px; text-align: center;">/</td> </tr> </table>		コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○	/	維持	○	/	低下	/	/
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○	/																	
	維持	○	/																	
	低下	/	/																	
(廃止・休止・事業完了の場合記入不要)																				
審議会委員の皆様に会議に半数以上参加いただくこと。(鏡野町総合計画審議会規則)																				

事業番号	事務事業名	国民健康保険病院建設事業	所管課名	総合政策室	令和 6 年度課長名	安道 智秋
03989	政策名	1 こころあたたかい福祉の里づくり	係名			
	施策名	11 地域医療の充実	根拠法令等	鏡野町国民健康保険病院改革プラン		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し	新病院建築工事(令和8年4月工事請負契約) ・ECI手法による実施設計協力業務の発注 ・事業用土地の取得 ・敷地内薬局事業者の選定 など	新築移転後30年以上経過し、医療需要に応じて増築、大規模改修を繰り返してきた施設は療養環境の狭隘化、老朽化の進行、自然災害による水害等の対策、さらには新興感染症の感染拡大時に備える整備が必要となっている。これらの課題を解決し、鏡野町の地域医療を担う自治体病院として、持続可能な経営と医療提供体制を確保するため、令和3年度に「鏡野町立病院あり方検討委員会」を設置し、新築移転の答申が発出される。
□ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)		
□ 単年度のみ	手続に必要な手数料、消耗品、旅費 等	

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新病院	ア 移転予定の新病院の数	件	見込		1	1	1
			実績		1	1	
イ			見込				
			実績				
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民、スタッフが利用しやすいものにする	ア 実施設計協力事業者	件	目標		1	1	0
			実績	0	1		
イ 事業用地の確保	イ 土地売買契約数	件	目標	-	5	0	
			実績	-	5		
ウ			達成率	0.0%	100.0%	-	
			目標	-	5	0	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 実施設計協力業務事業者の選定	ア プロポーザル、審査会などの打ち合わせ	件	目標			20	2
			実績			24	
イ 事業認定手続	イ 関係機関との調整	件	達成率	120.0%	-		
			目標	-	6	2	
ウ			実績	-	8	133.3%	400.0%
			達成率	-	-	-	-

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)

属する施策の対象		属する施策の意図	
ア	町民	ア	必要な時に適切な医療が安心して受けられる
イ		イ	早く手当、治療をしてもらう
ウ		ウ	
エ		エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計	01	款	04	項	01	目	01	大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計	衛生費	保健衛生費	保健衛生総務費	26	02	国民健康保険病院建設事業					03989		
予算(千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	決算(千円)	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 実績	7 年度 見込		前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町 債							町 債							
その他特財							その他特財							
一般財源		512	1,079	5,927		567	一般財源		266	777	5,927		511	
合計	9	512	1,079	5,927	0	567	合計(A)	9	266	777	5,927	0	511	
財源名称						従事正職員人数		2	3	3		1		
						延べ業務事務時間		800	400	400		-400		
						人件費計(千円)(B)		2,690	1,334	1,374		-1,356		
	最終予算額 1,079 千円					トータルコスト(A+B)		2,956	2,111	7,301		-845		

1枚目

事業番号	03989	事務事業名	国民健康保険病院建設事業	所管課名	総合政策室
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?

基本計画策定時と比べ、建設資材及び人件費が高騰し続けており、また、全国的に建設事業の不調、不落案件が増加している。

② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯

OM(発注者支援業務)と工期遵守、コスト削減を行えるECI手法のメリットを最大限活かせるよう協議を重ね、他事例も参考にしながら行った。

③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?

財源確保のため、他事業に影響がでないようにしなければならない。

5. 事業評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	現在の病院は、新築移転後30年以上経過し、医療需要に応じて増築、大規模改修を繰り返してきた施設は療養環境の狭隘化、老朽化の進行、自然災害による水害等の対策、さらには新興感染症の感染拡大時に備える整備も必要となっている。誰もが安心してくらせるためには医療機関は必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている		
	②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
有効性評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	民間病院は採算性を重視するが、へき地医療の最後の砦であり、町が行う必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である		
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
効率性評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	新病院の開院は令和10年度を予定しており、長期的事業である。そのため、事業の進捗により意図は変わるものと考える。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である		
④成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)			
公平性評価	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由説明	実施設計協力業務の事業者選定は、市場調査、他事例を入念に調査し、選定業務を実施した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している		
⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)			
効率性評価	<input type="checkbox"/> 影響がない	理由説明	事業の廃止、休止は、病院の開院の遅延となる。年々物価が上昇しており事業の遅れは建設費の増大に直結する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある		
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
公平性評価	<input type="checkbox"/> 改善余地がある	理由説明	業者選定で終わりではなくECI手法のメリットを活かし、物価上昇時のコストコントロールや工期遵守を徹底し、事業費を抑制していく。
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない		
⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)			
効率性評価	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	必要最低限の事業費で行っており削減の余地はない。ECI手法のメリットを活かし、物価上昇時のコストコントロールや工期遵守を徹底し、事業費を抑制していく。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
公平性評価	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由説明	岡山県との調整、選定事業者との協議を綿密に行い病院特有の品質を確保する必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)			
公平性評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由説明	医療を必要とする方が対象であり、受益者、受益者負担も偏ってはいない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果	②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠										
A 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり											
B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	今年度は、実施設計協力業務の事業者の選定を行い、施工予定者の知見、技術を取り入れながら実施設計を作成していく体制が整った。ECI手法のメリットを活かしコスト抑制を図り物価上昇に対応していく。また、用地取得については事業認定を受け事業用地を取得することができ、造成工事にも取り掛かることができた。										
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり											
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり											
③今後の事業の方向性(改革改善案)…複数選択可	④担当課としての事業の方針										
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">今後の改革改善案</td> </tr> <tr> <td colspan="2">物価高騰が著しいため、VECDIによりコストを抑制しているが、更なるコスト抑制には大幅な設計変更が必要である。</td> </tr> </table>	今後の改革改善案		物価高騰が著しいため、VECDIによりコストを抑制しているが、更なるコスト抑制には大幅な設計変更が必要である。							
今後の改革改善案											
物価高騰が著しいため、VECDIによりコストを抑制しているが、更なるコスト抑制には大幅な設計変更が必要である。											
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>成果維持</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>	コスト		削減	維持	向上	○	成果維持		低下	
コスト											
削減	維持										
向上	○										
成果維持											
低下											